議　員　総　会　会　議　録

日時：平成２９年１月１０日（火）
場所：全員協議会室
午後　２時４９分　開会

○澤田勝議長

議員総会を開会します。議題１．政務活動費成果の報告について。テーマ「行政評価システムのあり方について」を議題とします。山田清一議員から報告をお願いいたします。

○山田清一議員

【行政視察報告書に基づき説明】

○澤田勝議長

ありがとうございました。何かご質疑がありましたらお願いします。

○新美保博議員

特別委員会が行政評価についてをテーマに先進地の秩父市と春日部市に行き、そして政務活動費で京都府と関西学院大学に行っている。特別委員会の報告書にも関西学院大学の稲沢教授のことが書いてあるが、ということは先進地は稲沢教授ではないのか。というのが１点。特別委員会が物足りなかったから、特別委員会の予算がないから政務活動費を使ってここに行って理解を深めたと理解していいのか。ということは今後も特別委員会は作るけども常任委員会でもいいが、行きたくなったら政務活動費を使って視察に行ってもいいということか。とすると現実にやっているのだから認められる話だ。言葉だけのあやかもしれないが、先進地は稲沢教授ではないのかと単純に思えるわけ。でも視察はこちらのほうが遅いし。

本題に入るが、市長からのトップダウンにより変革していく事が有効とあるが、そんなことは誰も前からわかっている話で今さら言うことではない。市長がトップダウンするかしないか、どうさせるかが必要。はっきり言うと今の半田市長がそんなことを必要だと思っていないから。職員だってそんなこと思っていないって。ただただデータを作らされている、やらされている感はあるかもしれない。ましてや予算との連動なんて考えていないし。それはもうわかっている話だから、それをどう連動させるかの答えはどこに書いてあるのか。お聞かせ願いたい。

○山田清一議員

いくつかありましたが、１点目、先進地は稲沢教授、これはごもっともでございます。しかしながら、稲沢教授もいくつか自治体にアドバイザーとして経験をされておりましてその一つが秩父市であるということです。しかしあくまでもアドバイザーですから、主体は自治体がこういう考え方、先ほども言いましたように目的や定義は自治体ごとに違うという中でそうした主たる考えはあくまでも自治体がやると。秩父市自身が考えてそれについて稲沢教授がアドバイスをするというスタンスですので、先進地と稲沢教授というこの２つを考えたということでございます。またここで報告したことはあくまでも特別委員会として行ったわけではありません。理由としては当然、この秩父市、春日部市に視察に行ったうえでもっと突き詰めたいという想いがありましたので、結果とし

てはそれを補う形にはなりましたが、ただ議員も自主的に参加しておりますので、特別委員会として行ったわけではなくて、さらに学びたい、調査研究したいという方のみが参加している状況ですので、特別委員会の委員が全員参加ではありません。

３点目ですが、今の報告は12月の視察ですので、ここに掲載しているのはあくまでも報告者である私が記載したものばかりです。ですので、まだ参加した方と協議をしていませんので、これからしっかりと皆さんと協議をして内容については詰めるという段階です。先ほどのトップダウンについては、あくまでも先進地で話があった事柄ですので、今後は生かすべきところはやはり生かす。皆さんの意見をまとめていきたいと考えております。

○新美保博議員

先進地の２市では物足りないからさらに行くのも結構なことだが、そうであるならばありきたりのトップダウンが必要だということではなく、こうするとトップダウンではないがこういうことが生まれるという答えがほしいから、次の委員会で話しておいて、今後の展望としてこういうことをやったらどうかということを聞かせていただけると有難いと思う。政務活動費の目的は、10万円かけても100万円戻ってくることができれば価値があるということで政務活動費を復活させた。せっかく政務活動費を使って視察に行って勉強してきたのなら、トップダウンを反映させるとかではなく、こうするといいというのがあると良かったと思います。これから出してくれると思いますが期待します。

○澤田勝議長

これから評価システムのほうにつながっていくということでよろしいですよね。ありがとうございます。他にありませんか。

○山内悟議員

新美保博議員と全く同じ質問だったのですが、といいますのは、③の半田市の課題は、まるまる評価システム特別委員会の視察報告書と全く同じですよ。②調査テーマも同じです。その際に今回の評価システム調査特別委員会の委員で行った調査が本来の公式な調査結果となるはずですよね。その点は皆さん一致すると思いますが。ただ独自にさらに調査するのは結構なことです。大いに調査研究を深めてくだされば いいです。問題なのは委員長報告に何が反映するかですが、今回の政務活動費で行った参加者の中には特別委員会の方、２人が抜けています。その中でやられた成果がどのように特別委員会の委員長報告に反映するのでしょうか。同じテーマだから言っているんです。

○山田清一議員

私が答えるべきかどうかわかりませんが、私が考えているのはあくまでも個人が学んできた、例えば私が調査する必要があれば、図書館に行って学んだものを委員会の中で委員の皆さんに提示をする、お話しをする。というそういうスタンスと変わらないと思っています。視察に行って学んだ事を委員会の中で取り上げて、発言して気づきがあったりして議論して理解を深めていく。そういうことではないかと思っております。なので今回は全員で視察に行ったわけではありませんので、特にそうした点は注意していきたいと思っております。以上です。

○新美保博議員

委員会は特別委員会としての報告書を出すでしょ。政務活動費のほうは、個人だよね。それぞれの責任で報告書を作るわけでしょ。考え方はそれぞれあるわけだから、それはたまたま同じ内容かもしれない。でも違っているかもしれない。だがそれは個人が責任

を持ってやるわけでしょ。

○中村宗雄議員

閉会中の調査テーマと同じテーマの本を買って読んで、委員長報告に盛り込んでも何ら問題はないので。

○澤田勝議長

しばらく休憩いたします。

午後　３時　４分　休憩

午後　３時　８分　再開

○澤田勝議長

再開いたします。他に何かご質問はありませんか。

【　「なし」との声あり　】

次にその他に何かございますか。

【　「なし」との声あり　】

では、これにて議員総会を閉会します。

午後　３時　８分　閉会